森林環境税　全会派が歩み寄り共同提言

意見対立が続いてきた特別委員会

H26年度の導入を目指す「森林環境税」のあり方を議論するため、県議会では本年度「森林環境税導入に関する特別委員会」を設置。これまで、高知県や兵庫県など先進地を視察したうえで真剣に議論を続け、後藤も委員として参画してきました。

当初から委員会における議論は真っ二つに分かれ、「使途は森林整備等の本来の事業に限定し、税額も最小限に抑える」と主張するリベラル群馬等の会派に対し、自民党は「使途は汚水処理等、森林整備以外の事業にも広げ、税額も全国トップクラスの額にする」と主張し、一致点を見出すのは困難な状況にありました。

11月議会において、県民への意見募集（12月18日開始）を行うにあたっての原案を作る必要から、委員会として意見の集約を図らねばならなくなりました。

議論を尽くし、歩み寄ることで議会の責任を果たす

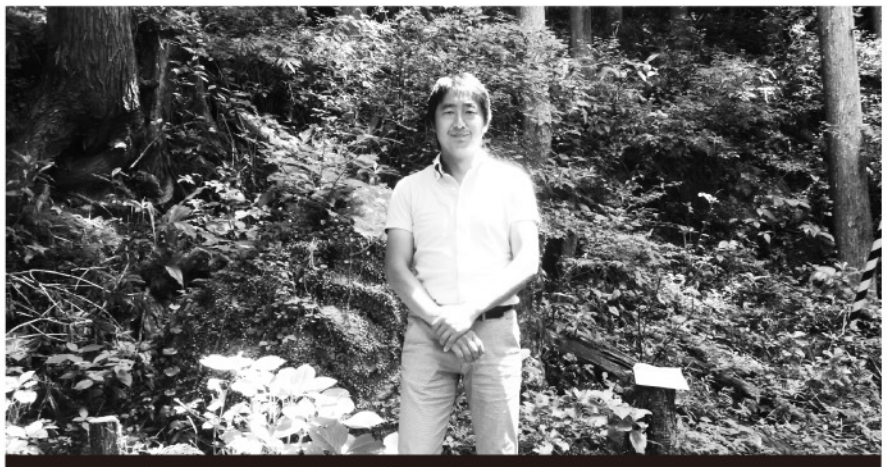
委員会における各会派からの意見集約の中で、リベラル群馬・新生会・公明党・爽風の4会派は意見調整の協議を重ね、①税額は最小限（500～700円程度）に抑えるべき。②使途は本来の森林整備事業等に限定すべき。といった点を柱に共同歩調で提言を行いました。

非自民会派が足並みを揃えたことを受け、前述したとおり主張が真逆であった自民党も歩み寄りの姿勢を示し、別欄のとおり委員会としての共同提言を取りまとめるに至りました。

各会派が関わる様々な立場の声を取りまとめ、一致に導く議論ができたことは画期的であり、議会の責任を果たすことができたと評価できます。当然、「県民への意見募集」でHP等で示されている制度案も議会の提言に沿った中身となっています。

■ 提言の主なポイント

- ◎ 税額は700円（年額）とし、課税期間は5年とする。
- ◎ 名称は「ぐんま緑の県民税」など、親しみのあるものにする。
- ◎ 使途については、手入れ困難な森林の整備など、本来の使途に限定する。
- ◎ これまでの検討案にあった、合併浄化槽整備などの汚水処理事業については使途から除外し、既存の公共事業の中で行なう。
- ◎ 学識者等による第三者機関を設置し、事業内容の検証・評価を行う。



森林環境税を用いた森林整備状況を視察（高知県香美市）

「森林整備」に使途を限定

県議会特別委が森林環境税で提言

県が導入を目指している森林環境税の在り方を検討している県議会の特別委員会（関根囹男委員長）は26日、個人の年間税額を700円とし、使途を「森林整備」に限ることを柱とする提言をまとめた。近く大沢正明知事に提出する。

提言では、水源となる奥山や里山、竹林などの整備に事業を限定。徴収方法は県民税均等割に個人700円、法人7％をそれぞれ上乗せし、導入5年後に見直す。税の名称を「ぐんま緑の県民税」などとする。

11月27日 上毛新聞より抜粋

森林環境税

個人税案は2倍差

県議会特別委　各会派に隔たり

県が2014年度の導入を目指す森林環境税の在り方を検討している県議会の特別委員会（関根囹男委員長）が提出を求めている各会派案が9日、おおむね固まった。

県の有識者会議は県民税（均等割、年額）を個人で700円、法人で7％上乗せし、森林整備と水質保全の両事業に振り分ける案を示している。

この税額を唯一上回る見通しなのが自民党。個人千円、法人10％で最終調整しており、年間税収を11～12億円と見込む。森林整備以外に、平野部の納税者への不公平感に配慮し、合併浄化槽の普及など水質保全事業に使える様にする。

他会派はいずれも水質保全事業を認めず、その分を税額抑制や森林整備事業に振り向ける。リベラル群馬は個人500円、法人5％と抑え、森林保全ボランティア育成などソフト事業への重点配分を求める。

公明党と新星会はいずれも個人700円、法人7％を設定。公明党は花粉症対策や二酸化炭素（CO_2）の排出権取引の促進などを提案する。新星会は山林の放射性セシウム除染の調査研究に活用するよう求める。爽風はリベラルなどと歩調を合わせるという。

11月10日 上毛新聞より抜粋

地域活動ミニ報告　八幡地区

観音塚八幡文化まつり

古墳の魅力に触れて

スタンプラリーや餅つき

高崎

高崎市の八幡古墳群を地元の子どもたちに知ってもらおうと、古墳巡りのスタンプラリーを中心とする「観音塚八幡文化まつり」が28日、市観音塚考古資料館周辺で開かれ、多くの親子でにぎわった。

地元住民らで組織する実行委員会が主催し、東国文化周知事業として県の助成を受けてことし初めて実施した。

古墳を巡りながら地域の歴史を学ぶスタンプラリーには約150人が参加した。会場には飲食やくじ引きゲームの模擬店が軒を連ね、昼時には餅つきも行われた。

同資料館では子どもの絵画や大人の川柳など古墳にちなんだ地元作品展もあった。

11月27日 上毛新聞より抜粋

10月28日、県の「東国文化周知事業」の委託を受け、八幡地域の若者有志を中心に実行委員会を立ち上げ「観音塚八幡文化まつり」を開催。子ども達が観音塚古墳など地域の歴史遺産を見直す機会に。